

蘭茹

人か漢種を得て、その地に播蒔せしが、今にいたりても年ごとに生出るものなるべければ、これを以て國産の證とはなし難し、扱續隨子はその苗葉花實すべて大戟に似て、たゞ長大なるを異なりとし、その功能に至りても、また大戟澤漆輩のに似て、専ら利水解毒の要藥なりといへども、大戟は根澤漆は莖葉を用ひ、此物は子を用ゆるを異なりとす、又本草和名に續隨子施用多驗といひ、いはゆる百兩金、また千金子などの名によりても、古に此ものを貴みて用ひし事は、えられたり、今はたゞ紫金錠の料のみに用ひて、解毒の功を知るといへども、利水の藥に至ては、絶て世の人用ゆる事をえらざるは、さらに古を考へざる也。

〔草木育種後編下品〕續隨子本草 秋分に畦へ種を布て、來春に至り生長し、實を結ぶ、一本にて三尺

四方も蕃殖はびこものなり、根に多く糞水干鰯あぶらかすを入れて、實を多くとり、油を窄りてよし、此油を窄るかすを、又此草の肥にして尤妙なり。

〔本草和名十一〕蘭茹、一名屈居仁音九勿、一名離婁仁音九勿、漆頭蘭茹出高麗、草蘭茹出陶景注、一名離

樓、一名屈居、一名久居、一名大要已上四名、一名散熱、一名散炆已上二名、和名禰阿佐美、一名爾比万久佐。

〔倭名類聚抄二十〕蘭茹 本草云蘭茹聞如二音、和名禰阿佐美、一云仁比萬久佐

〔箋注倭名類聚抄十〕太平御覽引吳普云、閩茹葉員黃、高四五尺、葉四四相當、四月華黃、五月實黑、根

黃有汁、亦同黃、黑頭者良、本草陶注云、今第一出高麗、色黃、初斷時汁出、凝黑如漆、故云漆頭、次出近

道、名草蘭茹、色白、葉似大戟、花黃、二月便生、蜀本圖經云、葉有汁、根如蘿蔔、皮黃肉白、圖經云、三月開

淺紅花、亦淡黃色、不著子。

〔物類品隲三〕蘭茹 東璧曰、春初生苗、高二三尺、根長大如蘿蔔、莖菁狀、或有岐出者、皮黃赤肉白色、破

之有黃漿汁、莖葉如大戟、而葉長微濶不甚尖、折之有白汁、抱莖有短葉、相對團而出、尖葉中出莖、莖中

有黃漿汁、莖葉如大戟、而葉長微濶不甚尖、折之有白汁、抱莖有短葉、相對團而出、尖葉中出莖、莖中